

P2 経営支援レポート
元気印 ズームアップ

P4 年頭あいさつ

P5 青年部・女性部だより

P6 Information 商工会だより

P8 掲示板

ニュースクリップ
News Clip

あ き ひと しょう こう にん
商きない工らす人びと **ふくしま商・工・人**

2019.1.1
Vol. 383



P2に掲載

**飯舘村から
福島県の復興を支えたい**

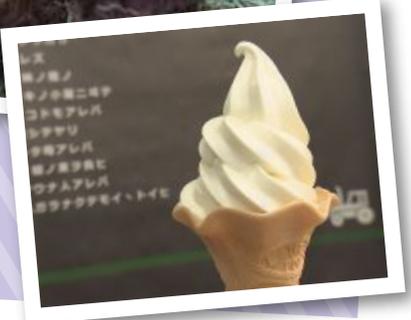
飯舘村・佐藤工業



P3に掲載

**鮫川村産「えごま」と「ジャージー牛乳」を
利用した新たな特産品としての
「えごまクリームチーズ」の開発と販路開拓**

鮫川村・ファームつばさ



元気印

経営支援レポート

ズーム

アップ

県内2地域の商工会からがんばっている会員企業をご紹介します。みなさんの経営のヒントになるお話もたくさんいただきました。是非、ご感想を福島県商工会連合会までEメールにてお寄せください。(f-wing@do-fukushima.or.jp)

県中・県南 鮫川村商工会

鮫川村産「えごま」と「ジャージー牛乳」を利用した新たな特産品としての「えごまクリームチーズ」の開発と販路開拓



ファームつばさ 代表 清水 大翼氏

住所 〒963-8403 東白川郡鮫川村大字赤坂東野字葉貫13-2 連絡先 TEL 0247-59-5958 定休日 不定

【事業所紹介】 鮫川村で生まれ育ち、大学進学により地元を離れました。在学中に北海道標茶町の牧場での体験から、地元の鮫川村に帰り酪農を営みたいと思い、在学中に「放牧酪農」「生乳加工」を柱とした牧場経営の構想を作成しました。卒業後に北海道で2年間の酪農実習を行い、震災後の2012年に帰郷し夏にはジャージー牛の飼育をはじめました。



【新商品の開発までの経緯と連携について】 父が運営している「NPO法人 明日飛子ども自立の里」で酪農部門を立ち上げ、結婚を機に2017年に夫婦で独立をしました。現在では30頭となりましたが、毎日、酪農組合へ生乳を全量出荷していました。ジャージー牛は国内の飼育率が1%

以下ととても希少な乳牛ですが、乳量が少ないため、生乳の出荷だけでは安定した経営はできません。そのため、自分たちで付加価値を付けて商品を販売したいと考えていました。

そんな時に、「ふくしま農工商連携ファンド事業」を知り、申請書を作るために準備に取り掛かりました。しかし、何もかもが初めてでうまく進まずに商工会へ相談しました。



ジャージー牛乳で「クリームチーズ」の製造販売を計画し、ファームつばさでクリームチーズを製造し、鮫川村の特産品であるえごまを

組み合わせたら良いのではないかと話が進んでいきました。そして、村の新たな特産品の開発を目標とし、より付加価値の高い商品を作る計画となりました。連携先は「NPO法人 明日飛子ども自立の里」と「特産さめがわ合同会社」となり、3者の得意分野と実績をミックスすることで他にはない商品製造を目指し、平成29年に申請した助成金は見事採択され、2018年の秋にえごまクリームチーズが完成しました。県内を中心に、東京都内のレストランなどでも、口コミで新規取引先も増えてきています。現在は業務用のみの販売しか行っていませんが、一般消費者向けの商品も準備中です。



商工会の皆様には、申請書の作成を通していろいろとお世話になりました。私たちが手探りしながら書いた申請書を丁寧に精査してくださり、文章の肉づけや完成した商品の販売戦略に至るまでとても親身になって考えていただきました。書類審査の後のプレゼンでも的確にアドバイスをくださり、無事に乗り切ることができました。

今こうして、自分たちの夢に向かって大きな一歩を踏み出したのも、経験豊富な職員の方々の手厚いサポートのおかげです。心から感謝しています。

【商工会による支援内容】

鮫川村は山間部にあり、行政自体も農工商連携に積極的な村です。村内では以前より6次化による商品開発の相談があり、いかに成果の出る事業計画となるかを一緒に考えられたことがよかったと思います。大切なのはここからで、商品の安定供給、販路拡大、財政状況の健全化など、考えなければならぬことは沢山あるので、引き続き一緒に取り組んでいきたいと考えています。

浜通り 飯舘村商工会

飯舘村から福島県の復興を支えたい



佐藤工業 代表 佐藤 健太氏

住所 〒960-1636 相馬郡飯舘村前田字古今明220番地 連絡先 TEL 0244-42-1083 FAX 0244-42-0584 定休日 毎週 土曜日、日曜日

【事業所紹介】 平成元年に父が創業し、昨年5月に事業承継を行っております。当社は、公共工事に使用される消波根固ブロックの型枠、ブロック二次製品の型枠等の保管、整備、メンテナンスを主な事業としています。その手法としては、投射材を金属加工物に衝突させ、加工を行うプラスト手法を用い、上記製品型枠等の錆落としと下地処理加工を行ったうえで防錆塗装を行うことを主な事業としています。



【商工会の支援内容】

・福島県中小企業等グループ施設等復旧整備補助金
・ふくしま産業復興雇用支援助成金
・小規模事業者持続化補助金
・福島県原子力被災事業者事業再開等補助金
東日本大震災時には原子力災害という目に見えない恐怖に直面し、近隣住民の相次ぐ避難を目の当たりにして、事業の廃業を考えましたが、災害復旧工事における消波ブロックの重要性が高まり、東日本に同業者が少ない現状を踏まえ、飯舘村が全村避難中であつた平成24年10月に事業を再開しました。しかし、事業再開後は風評被害(受取現場側が避難区域からの製品の受取を拒否)の影響を強く受け、売上高は被災前の半分にまで落ち込み、当社の経営は緊迫した状況となっていました。相談にのってくれた商工会職員の伴走型支援により、経営の見直しを図ることに取り組みました。事業計画書を作成することによって各種補助金を活用することができ、市場調査や生産性を上げるための機械の導入、またホームページを開設して新たな販路拡大を図っています。



自社の強みを活かし、弱みを強化することができたおかげで、震災前の状態に近い売上まで回復することができました。

【今後の目標】

現在は弊社工場への製品持ち込みでの製品加工となっておりますが、今後は運搬ができない大型の物や長尺物への対応が可能となり、現場へ機材を持ち込んで行う業務(移動式プラスト)を想定しております。この設備は国内でも保有数の少ない設備であり、強力で大容量の集塵機能も有するため、作業現場での研削材の飛散などのリスクを大幅に軽減し、周辺環境に配慮した作業が行われ、新たな販路拡大へと繋がる事が予想されます。「我々の扱う製品は、お客様の大切な資産である」という先代からの教えを引継ぎ、今後もお客様に喜ばれるサービスを追求してまいります。

また、新サービスを行うにあたり、雇用増加も見込めることから、個人事業から法人成りし、さらには経営革新計画の承認を得ることを目標とし事業拡大を図ってまいります。



ふくしまの商工業の再生を目指して
福島県商工会連合会会長 齋田倉治



平成三十一年の新春を
迎へ、謹んで年頭の御挨拶
を申し上げます。
我が国経済は、大手企
業や都市部の中堅・中小
企業を中心に企業収益と雇用情勢の改善が続き、
緩やかな回復基調を続けております。しかしなが
ら、地方の中小企業・小規模事業者においては、過
疎化や人口減少による消費の縮小、働き手不足や
経営者の高齢化、後継者難など厳しい経営環境が
続いております。また、本年十月には消費税率の引
上げ、軽減税率制度の導入、更には働き方改革な
ど、新たな経営課題への対応も迫られております。
本県においては、震災と原発事故の影響が長期化
し、震災から七年が経過した今でも、多くの避難事
業者は事業再開に至らず、また、風評被害の影響も
依然として根強く、深刻化しております。

企業・小規模企業振興基本条例に則った新たな
支援施策の推進、地域経済活性化のための商工会
機能の充実強化について知事に要望しました。
新しい年は、引続いて復興・創生、風評被害対策
に取組み、中小企業・小規模事業者に寄り添った地
域密着の支援機関として、会員事業者に対し、より
一層きめ細かな伴走型支援を実施していかなくれ
ばならないと考えております。そのためには、限り
ある組織の財源やマンパワーをどう活かすか、自ら
がこれからのあるべき商工会像を模索し、新たな
経営支援体制及び事務局体制の構築に必要な組
織づくりを目指すために、地域の特性や商工会の
実態に即した「新商工会アクションプラン」の策定に
取組みます。巡回訪問(商工会は行きます、聞きま
す、提案します)はもとより、会員の皆様のニーズに
応えるため、職員一人ひとりが支援能力の向上に努
め、小規模事業者持続化補助金をはじめ、各種政
策を活用し、中小企業・小規模事業者への支援に努
めて参ります。また、広域連携体制を一層強化し、効
果的な企業支援に取組み、県内の産業に活力を取
り戻すことができるよう、各般の事業を展開して
参ります。

こうして、昨年、復興・創生の取組みとして
会員事業者の事業再開支援や原子力損害賠償に
関する支援や要望等、会員事業者に寄り添った経
営支援を強化し、真に頼りになる商工会としてふ
くしまの商工業の再生を目指して「をスローガンに
掲げ、各般の事業に取組んで参りました。特に、風
評被害の払拭とともに伴走型による個社支援とし
て食のフェアインいわきを開催、東京日本橋では商
談会を実施し、取扱商品の一部を日本橋ふくしま館
「ミッテ」にて引続き販売する等、商品開発・販
路開拓支援を実施しました。十月には、「知事を囲
む商工会代表者会議」を開催して、地域総合経済
団体を担う商工会として、震災と原発事故の影響に対
する県内事業者への支援の充実強化、福島県中小
企業・小規模企業振興基本条例に則った新たな
支援施策の推進、地域経済活性化のための商工会
機能の充実強化について知事に要望しました。
新しい年は、引続いて復興・創生、風評被害対策
に取組み、中小企業・小規模事業者に寄り添った地
域密着の支援機関として、会員事業者に対し、より
一層きめ細かな伴走型支援を実施していかなくれ
ばならないと考えております。そのためには、限り
ある組織の財源やマンパワーをどう活かすか、自ら
がこれからのあるべき商工会像を模索し、新たな
経営支援体制及び事務局体制の構築に必要な組
織づくりを目指すために、地域の特性や商工会の
実態に即した「新商工会アクションプラン」の策定に
取組みます。巡回訪問(商工会は行きます、聞きま
す、提案します)はもとより、会員の皆様のニーズに
応えるため、職員一人ひとりが支援能力の向上に努
め、小規模事業者持続化補助金をはじめ、各種政
策を活用し、中小企業・小規模事業者への支援に努
めて参ります。また、広域連携体制を一層強化し、効
果的な企業支援に取組み、県内の産業に活力を取
り戻すことができるよう、各般の事業を展開して
参ります。

こうして、昨年、復興・創生の取組みとして
会員事業者の事業再開支援や原子力損害賠償に
関する支援や要望等、会員事業者に寄り添った経
営支援を強化し、真に頼りになる商工会としてふ
くしまの商工業の再生を目指して「をスローガンに
掲げ、各般の事業に取組んで参りました。特に、風
評被害の払拭とともに伴走型による個社支援とし
て食のフェアインいわきを開催、東京日本橋では商
談会を実施し、取扱商品の一部を日本橋ふくしま館
「ミッテ」にて引続き販売する等、商品開発・販
路開拓支援を実施しました。十月には、「知事を囲
む商工会代表者会議」を開催して、地域総合経済
団体を担う商工会として、震災と原発事故の影響に対
する県内事業者への支援の充実強化、福島県中小
企業・小規模企業振興基本条例に則った新たな
支援施策の推進、地域経済活性化のための商工会
機能の充実強化について知事に要望しました。
新しい年は、引続いて復興・創生、風評被害対策
に取組み、中小企業・小規模事業者に寄り添った地
域密着の支援機関として、会員事業者に対し、より
一層きめ細かな伴走型支援を実施していかなくれ
ばならないと考えております。そのためには、限り
ある組織の財源やマンパワーをどう活かすか、自ら
がこれからのあるべき商工会像を模索し、新たな
経営支援体制及び事務局体制の構築に必要な組
織づくりを目指すために、地域の特性や商工会の
実態に即した「新商工会アクションプラン」の策定に
取組みます。巡回訪問(商工会は行きます、聞きま
す、提案します)はもとより、会員の皆様のニーズに
応えるため、職員一人ひとりが支援能力の向上に努
め、小規模事業者持続化補助金をはじめ、各種政
策を活用し、中小企業・小規模事業者への支援に努
めて参ります。また、広域連携体制を一層強化し、効
果的な企業支援に取組み、県内の産業に活力を取
り戻すことができるよう、各般の事業を展開して
参ります。

情熱を胸に、挑戦を続ける
福島県知事 内堀雅雄



謹んで新年の御挨拶
を申し上げます。
私は、昨年十月の
知事選挙におきまし
て、多くの県民の皆
様の御支持を頂き、引き続き県政を担
わせていただくことになりました。皆様
から伺った様々な思いを自分の中心に据
え、福島県の未来を切り拓くため、これか
らも全力で取り組んでまいります。

次に、人口減少対策につきましては、
定住・二地域居住や雇用の場の創出を
進めるとともに、安心して結婚・出産子
育てができる環境の充実に向け、十八歳
以下の医療費無料化の継続や待機児童
対策、教育環境の整備など、総合的な施
策を講じてまいります。
また、医療・福祉・介護の人材確保・育
成や全国に誇れる健康長寿県を目指す
取組を引き続き積極的に進めてまいり
ます。

未曾有の複合災害からの復興と急速
な人口減少に対応するための地方創生
という、困難な課題に真正面から取り組
むためには、常に危機意識を持って、挑
戦を更に進化させなくてはなりません。
まず、避難地域の復興・再生につきま
しては、被災者の生活再建や生業の再
生、廃炉・汚染水対策、医療・介護提供体
制の構築、学校の再開、公共交通ネット
ワークの構築、さらには鳥獣被害対策な
ど、安心して帰れる環境づくりを進めて
まいります。

併せて、福島イノベーション・コースト構
想に地元企業等の幅広い参加を頂きな
がら具体化を更に進め、再生可能エネ
ルギーやロボットを始めとする新産業の創
出・集積や農林水産業の再生など、浜通
り地域の産業基盤の回復にしっかりと
取り組み、商工業を始めとした既存産
業の振興につぎましても、人材の育成や
確保を始め、産業の足腰を強化するた
めの支援を行ってまいります。

併せて、福島イノベーション・コースト構
想に地元企業等の幅広い参加を頂きな
がら具体化を更に進め、再生可能エネ
ルギーやロボットを始めとする新産業の創
出・集積や農林水産業の再生など、浜通
り地域の産業基盤の回復にしっかりと
取り組み、商工業を始めとした既存産
業の振興につぎましても、人材の育成や
確保を始め、産業の足腰を強化するた
めの支援を行ってまいります。

二〇二〇年の東京オリンピック・パラ
リンピックにおいては、選手村等への県産
食材提供を目指す農林水産物のGAP
認証取得や、大会で活用を目指す再生
可能エネルギー由来の水素を製造する
拠点整備を進めるとともに、これまでの
御支援に対する感謝の思いと、復興が進
んでいる福島を国内外に広く発信
できるよう、関係の方々を合わせて
準備を進めてまいります。
県民の皆様、そして福島を応援してく
ださる全ての方々「共働」しながら、挑
戦を続け、生まれよる良かた、住んで良
かた、来てよ良かった、と思っていただ
けの県づくりを進めてまいりますので、今
後とも一層の御支援、御協力をお願い申
上げ、新年の御挨拶といたします。

青年部 だより

~青年部主張発表大会~
武藤隆弘さん(きたかた)全国大会出場!



全国大会



発表する武藤さん

平成30年11月21日、広島県広島市の「広島グリーンアリーナ」で開催された第20回商工会青年部全国大会において、武藤隆弘さんは東北・北海道ブロック代表として堂々とした素晴らしい発表を行いました。結果は惜しくも最優秀賞とはなりませんでしたが、主張発表を通じて全国の青年部員に地元を想う熱い気持ちは伝わったものと感じられました。

~第7回商工会うまいもんNo.1決定戦を開催~



参加者の集合写真

福島県商工会青年部連合会主催による第7回商工会うまいもんNo.1決定戦が10月27日(土)~28日(日)の2日間にわたり、「川俣町中央公民館」で開催されました。県内各地の22商工会が自信をもっておススメする地元の「うまいもん」が集結し、来場者の舌をうならせていました。来場者の投票の結果、松川町商工会青年部の「あっ!プルプルからあげ」が大会史上初の連覇を達成しました。

第7回商工会
うまいもんNo.1決定戦結果

- 優勝 松川町商工会青年部 「あっ!プルプルからあげ」
- 準優勝 伊達市商工会青年部 「伊達の男串」
- 第3位 国見町商工会青年部 「国見バーガー2」

女性部 だより

~第20回商工会女性部全国大会 in 兵庫~
ふたつの海に抱かれた5つの個性で魅せるひょうご
月~ジャズが流れる みなとまち KOBE~

とき:平成30年11月6日(火)
場所:神戸市「神戸ポートピアホテル」



全国大会参加福島県内女性部長等の集合写真



オープニングセレモニー

第20回商工会女性部全国大会in兵庫は、兵庫県神戸市「神戸ポートピアホテル」において開催され約2,500名の出席者が参加されました。そのうち福島県からは34名が出席しました。

主張発表大会においては、テーマを「女性部活動と地域振興・まちづくり」~竹灯りでまちを照らす~と題し発表した佐賀県(九州ブロック代表)の発表者(太良町商工会女性部・副部長:海田久子さん)が最優秀賞となりました。雑多に生えている竹林という地域資源利用と地域の活性化に悩んだ女性部員の思いで、お祭り等で竹の中にロウソクを灯すプロジェクトを立ち上げ、地元青年部や各種関係機関を巻き込み地域ブランドを形成していく内容でした。

次回の商工会女性部全国大会の開催地は島根県松江市で10月29日(火)に開催されます。



大会会長挨拶: 木武全女性連会長

地域資源最大限活用による 持続可能なまちづくりを目指して



伊佐須美神社

会津美里町は、福島県の西半分を占める会津地域のほぼ中央に位置し、阿賀川を挟んで会津若松市と接した南北に長い地形の町で、平成十七年に旧会津高田町、旧会津本郷町及び旧新鶴村の三町村が合併して誕生した町です。



会津美里町商工会長の荒川英紀です。

地域資源活用による観光振興事業の推進
平成元年に発掘された「冨宮遺跡」からは約二万年前の旧石器が出土しており、本町にはかなり古い時代から人々が住んでいたと考えられます。また当町には岩代国一の宮、会津総鎮守として名高い伊佐須美神社があり、会津の総鎮守・会津文化発祥の地として歴史を創ってきました。観光においては、伊佐須美神社、



本郷せと市

伴走型支援による持続的発展を目指して

現在の会津美里町商工会は平成二十一年四月一日、旧会津高田町商工会に旧会津本郷・旧新鶴の商

会津本郷焼、中田観音をはじめとする数多くの貴重な歴史、文化、自然温泉資源等を有しています。特に門前町として伊佐須美神社を核として、春には「あやめ祭り」、夏には「御田植祭り」、秋には「伊佐須美神社例大祭」には「高田大儀引き」と春夏秋冬一年を通じてお祭りがあります。この地域資源を最大限活用した滞在型交流人口の拡大による地域活性化を図っていききたいと思います。



新鶴ワイン祭り

工会在編入合併し、現在会員数は四百九十八名です。合併五年後、平成二十六年に「小規模企業振興基本法」が制定施行され、小規模企業の成長発展から持続的発展へと施策等が変革してきています。このような状況下、地域唯一の経済団体であることを基本として、提案型巡回の徹底「商工会は行きます」提案します。会員満足向上運動を展開して、会員の持続的発展への伴走型支援、そして地域商工業振興、地域活性化を更に推進していききたいと思います。

小規模事業者の経営力向上と地域活性化にむけて



平成三十年五月に開催しました、飯坂町商工会常総会におきまして、新たに会長に就任いたしました紺野篤男です。

飯坂町は、福島市の北部に位置し福島市の奥座敷として温泉街を中心に「いで湯とくだもの里」として栄えた温泉地です。日本武尊が東北征討の際に発見、開湯したともいわれ、秋保・鳴子とともに東北三名湯の一つとして多くの人に親しまれてきました。

最盛期には百二十の旅館と年間百七十八万人の観光客が訪れていましたが、景気の低迷や旅行形態の変化に伴い現在では旅館数、観光客共に減少し、大変厳しい状況が続いています。

そのような中、当商工会といたしましても、行政機関等と協力しながら観光振興に取り組みと共に、会員事業所の喫緊の課題である事業継続対策を重点事業に位置付け、商工会の経営支援体制の強化、支援能力の向上を図りながら、会員に寄り添った伴走型支援を行っていきたくと考えています。



東北中央自動車道 開通

東北中央自動車道の開通
平成二十九年十一月に東北中央自動車道米沢―福島間が開通し、来年には東京オリンピックの野球・ソフトボールが福島市で開催されるなど、明るい話題も増えてきました。特に東北中央自動車道の開通は、県外からの観光客の増加をもたらす、宿泊客が増加するなど一定の効果も出ているようです。
今後ますます交流人口の増加による地域経済の活性化が期待される所です。



経営力向上セミナー

経営力向上セミナー

飯坂町商工会では、経営力の向上を目的に講習会を実施しています。

過去には販路開拓及び生産性の向上を目的に、経営計画書作成セミナーの開催やPOP講習会、青申会との共催による税務研修会等を開催してきました。最近では、重点事業である小規模事業者の事業継続に向け、淡路島にある旅館の三代目として自ら事業再生に取り組み、現在は(株)アテナソリユーション代表としてコンサルタントを行っている立石裕明先生を講師に招き、セミナーを開催しました。
今後は、経営発達支援計画と絡めた経営計画策定セミナーや事業承継セミナーなどを開催し、小規模事業者の課題解決に取り組んでいく考えです。



飯坂温泉グラノーラ

飯坂温泉グラノーラ
湯のまちいいざかグラノーラ工房では、果樹農家・建設会社・飲食店が連携し地元の果物と野菜を使った6次化商品「飯坂温泉グラノーラ」を開発しました。
町内の空き店舗を改修した加工場で製造を始め、現在は町内の旅館や飲食店でも提供を行っています。「風評被害で落ち込んだ農作物の売上を回復させたい」との思いから、果物の消費拡大につながる加工品作りを考え、現在に至っています。
また、事業的にはこれからといったところですが、専門家派遣等を活用しながら地域活性化に向け支援していきたくと考えています。

プロに相談すっきり解決!

保険・共済相談のすすめ

保険や共済は自分自身のリスクに合わせて準備するものです。もしものときの備えが不足していないかなど、早めに見直しをしたいもの、見直しを考えている人や、そもそもどんな保険に入っているかよくわからないという人はぜひプロに相談をしてみましょう。

こんな人はプロのアドバイスを受けよう!

日々働いて家族の生活を支えている皆さん。収入を得ることはもちろん大切ですが、「もしもの備えも考えていますか?」
 万一のことが起きたときに、経済的な負担を軽減するために

加入するのが、保険や共済です。次のようなお悩みがないかチェックしてみてください。

- そもそも現在加入している保険の内容がよくわかっていない
- 内容は理解できても、今の保険の内容が適切かどうか自信がない
- 今の保険は保険料が高くて、老後資金の準備にお金を回せない
- 今の保険に加入した後、子どもが生まれた
- 自分に万一のときの事業承継を踏まえた保険に入りたい



あてはまる方は
 プロに相談を
 おすすめします!

いずれかに該当する方は、**プロに相談をしてみましょう**。あなたの仕事の状況や家族構成、ライフステージなどにあつた保障を見極め、効率よくカバーするためのアドバイスや提案を受

けることができます。それによって、必要な保障の漏れを回避し、また、**コストの無駄を省く**ことにもつながります。

商工会だからこそ、リスクをわかったうえでアドバイスしてくれる

保険ショップや代理店などでも保険の相談をすることはできます。そのなかで、商工会で相談をするメリットは何でしょうか。

まず挙げられるのは、**経営者や個人事業主ならではのリスクや悩みを踏まえた全体的なアドバイスが受けられる**ことです。たとえば、商工会会員として関心が深いものの一つに小規模企業ならではの事業承継や相続がありますが、生命保険を活用した相続税の節税(法定相続人数×500万円は相続税がかからない)や、分けにくいお店や家の代わりに生命保険で代償分割

する、といった分割対策など、提携保険会社のプロによるアドバイスが受けられます。

また、商工会が扱う保険や共済を組み合わせれば、小規模企業共済などの国の制度も含めたトータル提案が受けられます。

そのほか、商工会は身近にあるので、請求時や見直し時などに細やかなサポートを受けられる安心感も大きいでしょう。しかも、**商工会は「会員の満足度向上を図る」**ことを目的としているため、強引な勧誘をしない点も安心できます。

平成30年度ふくしま農商工連携ファンド事業 公募開始のお知らせ

新商品・新技術等の開発、調査・分析又は販路開拓等に 係る経費の一部を助成します

■第2回公募期間 平成31年1月4日(金)～
 平成31年1月31日(木)

■助成上限額 600万円

※平成31年4月1日から開始(事業着手)する事業が対象

■助成率 助成対象経費の5分の4以内

農林漁業者と中小企業者等の連携体が、それぞれの強みを生かしながら、新商品の開発や販路開拓等に取り組む事業に対して助成を行うことにより、地域産業の活性化を図ります。詳しくは、当センターWebサイト内、該当事業のページをご覧ください。

当センターWebサイト

<http://www.utsukushima.net/>

福島 振興センター

検索

お問合せ先



(公財)福島県産業振興センター 経営支援部経営支援課

〒960-8053 福島市三河南町1-20 コラッセふくしま2F TEL 024-525-4035